

君たちの力を社会問題の解決に！

【1】はじめに

体育祭も終わりました。6月は、1学期中間テストの結果が返却され、11日から三者面談が予定されています。成績のことや学校生活のこと、そしてこれからの進路のこと、それぞれの学年に応じて三者面談が行われると思います。

1年生にとっては、秋に最終決断をしなければならないコース選択、理系文系選択の話が始まります。2年生にとっては、3年生で選択する科目の話が始まります。2年生も秋に最終の決断をしてどの科目を選択するのかを提出することになります。2年生の秋の科目選択は、3年生で何を学ぶかだけでなく、卒業してからどんな進路を選択するかにも直結することになります。大学に進学する場合は、どの大学のどの学部を第1志望にするかにも関わる選択です。そこで、今回は、この6月から始まる将来に大きく影響を与えることになる「選択」について話をしたいと思います。

【2】今までの（将来の）選択についての考え方

（1）高度経済成長からバブル崩壊（戦後～1990年代初頭まで）

今までの高校での理系・文系の選択などの仕方は、次のように考えられてきました。

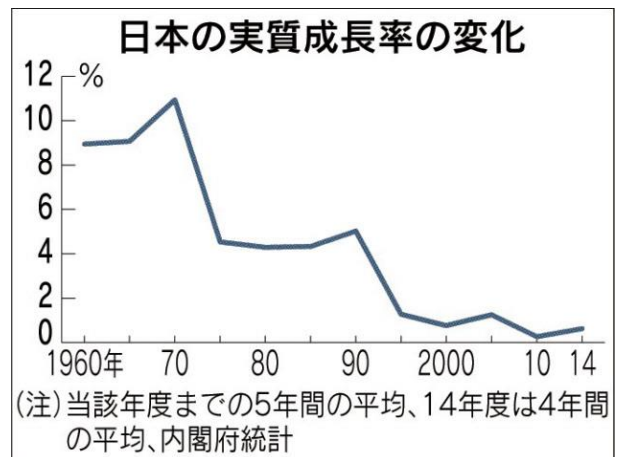
- ①将来、何をやりたいか？
- ②何ができるか？何が得意か？
- ③何に興味があるか？

この①～③の主語は、全部「私」です。「私が、何をしたいか？」
「私が、何ができるか、何が得意か」「私が、何に興味があるか？」
です。

昔ならば、それで良かったと思います。「昔って、いつ？」と思うかもしれませんね。そう、「昔」とは、日本が高度経済成長で景気がよく、バブルがはじけるまでです。この時代は、オイルショックなどで紆余曲折がありましたが、基本右肩上がりの時代でした。日本がうまくいっていた時代です。世界からも「JAPAN as No.1」なんて言われて賞賛されていた時代です。この時代は、「自分がやりたいことができる時代」だったのです。だから、「私（ワタシ）」を中心に物事を考えても将来の展望を描けたのです。

（2）バブル崩壊から2012年頃

1990年初頭にバブルが崩壊して、日本は、とてつもなく長いトンネルに入ってしまった。「失われた20年」といわれる時代です。この時代は、若者が将来の展望を描けなくなった時代です。「将来、何をしたいんだ？」と学校の先生が問いかけても、「〇〇はやりたいと思うけど、ホントにそんなことできるの？就職するのも大変じゃない！」という時代です。だから、「私（ワタシ）」を中心に将来を描いても、展望をもてない時代でした。この間、どんどん日本の若者は、内向き志向になりました。そして、「小さくまとまって」しまいました。そうするしかなかったのです。一時は、「1億総中流社会」と言われた日本で「貧困」という問題がクローズアップされるようになりました。そして、いま・・・



【3】日本（世界）が直面する危機

「失われた 20 年」の間に、日本や世界で様々なこと起こりました。少し象徴的な事件や事象を挙げてみましょう。

- ①2001年 9月11日 アメリカ同時多発テロ勃発
- ②2011年 中国のGDP（国内総生産）が世界2位へ（日本が第3位に転落）
- ③2014年 「IS（イスラム国）」国家樹立宣言、中東内戦激化
- ④2016年 イギリスEUから離脱を決定
- ・・・

「9.11」に象徴されるように、21世紀に突入して世界では、いたるところで「テロリズム」が発生しました。この背景には、イスラム教やキリスト教の問題という宗教問題が絡んでいるので、とても解決困難な問題となっていますが、より重要なのは「あらゆる格差が深刻な状態になっている」ということです。2011年には、ニューヨークで「ウォール街を占拠せよ」というスローガンを掲げ、「1%の富裕層が富を独占している、我々は99%だ」と抗議を行う学生・労働者の運動が起っています。

日本はどうでしょう？今、日本が直面している最大の危機は、「人口減少問題」「超少子高齢化問題」ではないでしょうか？

右のグラフをみてください。国土交通省の人口推移のグラフです。

- 2030年：11522万人
高齢化率31.8%
- 2040年：9515万人
高齢化率39.8%

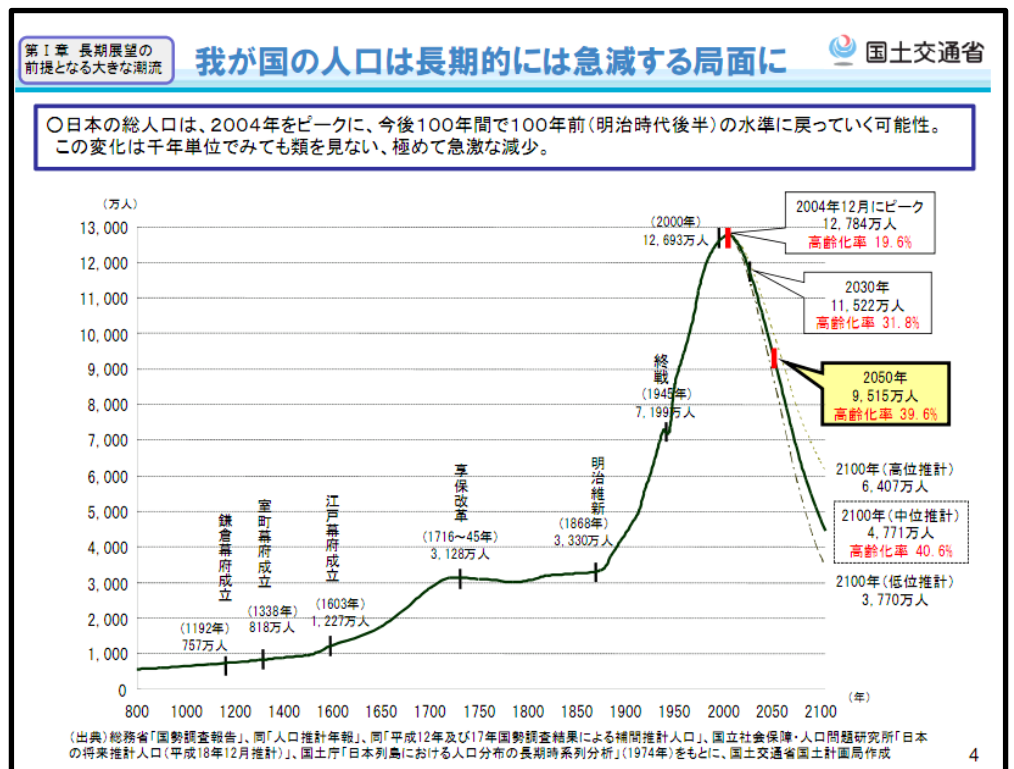
という数値が示されています。2100年には、5000万人を下回る試算です。さらに重要なことは、人口構成です。高齢化率が凄まじい勢いで伸びていきます。裏を返せば、15歳から65歳までの労働人口が急激に減少するということです。これは、日本の生産力の減退に結びついていきます。

さらに、人口減少は、地方都市の消滅をもたらします。この減少は、すでに始まっています。現在は、どこの市町村も「わが町に住んでください！」というPRや政策を打ち出していますが、これからどんどん小さくなっていく「パイ（人口）の奪い合い」をしているように見えて、根本的な解決には至らないのではないかと考えています。

【4】これからの（将来の）選択の考え方

さて、話を元に戻しましょう。たかが、理系・文系、科目選択の問題に「何で世界や日本の危機の問題が・・・」とされているのでしょうか。ここからが、本題です。今までは、「私（ワタシ）が何をやりたいか？」という「私（ワタシ）」が中心で将来を描いていました。「私（ワタシ）」がやりたいことが社会にどれだけの影響を（良い面、悪い面、双方で）及ぼすかということは、あまり重視されてこなかったと思います。だけど、これからは「私（ワタシ）」がやろうとしていることが、どれだけ社会に貢献できるか」ということを考えてほしいと思っています。もっと話を進めると、

「〇〇問題を解決しなければならない、そのために〇〇の道を選択する」



というように自分の将来を考えてほしいのです。

なぜ、このような事を言うか？それには、理由があります。

《第一の理由》

もう、日本も世界も歴史の転換点にあるのです。まだ、実感できていないかも知れませんが、「昨日のように今日があり、今日のように明日がある」という世の中ではないのです。大きく世界が変わろうとしている、そんな時代に生きているのです。

《第二の理由》

そして、その変革の具体化の一つとして、AIの登場があります。このAIの登場は「第4の産業革命」といわれています。第一次は皆さんも知っていますよね。歴史で習います。第2の産業革命が電力の大幅供給による重化学工業の発展、第3は、ICTの普及です。そして、AIの登場となります。このAIが根本的に私たちの生活や仕事を変えてしまうのは、もう知っていますよね。

《第三の理由》

歴史の転換点にあること、第4の産業革命が始まろうとしていることからいえることは、今後様々な問題や矛盾が噴出するという事です。そして、その問題や矛盾を一つ一つ解決してやっと新しい世の中が誕生するということになるでしょう。

だから、あなた達の役目は、

これから噴出するであろう、または噴出している問題や矛盾に対して、

解決策を生み出すこと (or 考え出すこと)

そして、社会に役立てること！

が求められているのです。どのような進路を選択するにしろ、「私(ワタシ)がやりたいこと」が「社会の何に役立つのか？」を考えてほしいですし、「自分の能力や資質を、何を解決するために使おうか？」というように考えてほしいと思います。そのための勉強であり、(大学に進学したいなら)大学での勉強や研究なのです。

今、NHKの大河ドラマでは「西郷(せご)どん」が放映されていますが、彼らは幕末の日本の危機を救うために、「己に何ができるか?!」と自問自答しながら、命をかけて前に進もうとしました。そんな気概が求められる時代が到来したかもしれません。

だから、これから1年生・2年生はコース選択や科目選択をするために、カリキュラムの話や進路分野の話があると思います。2年生は6月16日には「夢ナビライブ」に参加します。〇〇高校としては、初参加です。是非、自分の将来を考えると、自分が挑んでみたい社会の問題を考えてほしいと思います。

【5】どんな社会問題

が考えられますか？

それでは、今、世界はどんな問題に直面しているのでしょうか。国際協力機構(JICA)のwebpageを参考にいくつか紹介しましょう。できれば、一度アクセスしてほしいと思います。

世界が抱える課題への取り組み



JICAは、貧困削減、感染症、紛争、自然災害、気候変動など地球規模のさまざまな課題への取り組みを強化しています。課題・分野別のJICAの取り組みや事例をご紹介します。

[JICAが取り組む重点課題 特集ページ](#)

● 教育	● 保健医療	● 水資源	● ガバナンス
● 平和構築	● 社会保障	● 運輸交通	● 情報通信技術
● 資源・エネルギー	● 経済政策	● 民間セクター開発	● 農業開発／農村開発
● 自然環境保全	● 水産	● ジェンダーと開発	● 都市開発・地域開発
● 貧困削減	● 環境管理	● 南南・三角協力	● 気候変動
● 防災	● 栄養改善		

<https://www.jica.go.jp/activities/index.html>

この図が、JICA の webpage、「世界が抱える課題への取り組み」です。全部で 22 項目が設定されています。例えば、「教育」をクリックしてみましょう。そこには次のような記述があります。

教育はすべての人々が等しく享受すべき基本的権利であり、持続可能な開発目標 (SDGs) (注) のすべての目標の達成を下支えする重要な役割を担っています。また、教育を通じた多様な文化や価値を尊重する態度の醸成は、インクルーシブで平和な社会の基礎となります。

(注) 「持続可能な開発目標 (SDGs) と JICA の取り組み」

しかし、世界ではいまだ 5,800 万人もの初等教育学齢期の子どもが不就学の状態にあり [国連教育科学文化機関 (UNESCO)、2015]、少なくとも 2.5 億人が読み書きや計算の基礎を習得していないと推計されています (UNESCO、2013/14)。加えて、貧困、ジェンダー、障害、民族・言語、居住地域等による格差が生じており、すべての子どもに対する良質な教育の保障が課題となっています。

また、若年失業率は増加傾向にあり、約 2.25 億人の若者が学校に通わず、職業訓練も受けず、就業もしていない状況にあります [国際労働機関 (ILO)、2014]。職業技術教育・訓練へのアクセス拡大や質の改善が必要とされています。

一方、高等教育へのアクセスは着実に向上していますが [開発途上国の総就学率は 2004 年 16%、2014 年 29%、(UNESCO、2015)]、教員の育成、施設・機材の整備、研究資金の確保は必ずしも伴っておらず、教育・研究の質の面で依然大きな課題が残っています。

JICA は、日本政府の教育戦略に基づき、2030 年までの SDG 教育目標の達成に向けて取り組むために、2015 年 10 月に今後 5 年間の教育ポジションペーパーを策定しました。途切れない学び (Learning Continuity) の実現という新ビジョンを据え、教育の段階や国の状況によって質の高い学びが途切れることのないよう、また、人間の安全保障の考えに基づき、一人一人の成長を重視し、教育と他セクターの連携による分野横断的な支援を目指しています。

私は、〇〇高校の生徒達に、もっと「外に目を向けてほしい」と思っています。「外」とは、日本の社会であり、世界です。あなた達の毎日は、朝 8:25 分から学校が始まり (朝練しているクラブもありますね)、6 時間ないしは 7 時間の授業を受け、放課後クラブ活動、行事が近づいてくれば、その取り組みという日々を過ごしています。その日常は、とても大切です、充実した高校生活を送ってほしいと思っています。ただ、

「それだけで良いのですか？」

という問題提起をしたいと思います。世界は動いています、歴史は動いているのです。日本も様々な危機に直面しています。その問題は、やがてあなた達の人生に確実に影響を与えます。もう一度言いますが、

「昨日のように今日があり、今日のように明日がある」

という世の中ではない

この 6 月、あなた達の人生の選択が始まります。将来、自分が何をやりたいかを考えるときに、「社会にどれだけ貢献できるか」という視点を忘れないでください。

＝追伸＝

何がやりたいか・・・を見つけられない人へ

その場合は、まず社会に役立つことを考えてください。人の役に立つこと、社会の役に立つこと、その中で興味があるものを調べましょう。そうすれば、何がやりたいかもわかってきます。何も動かない、何も調べない、自分ひとりで考えても、何も前に進みません。とにかく、若いときには、いろんなことに興味をもって、その世界をのぞいてください。そうすれば、自分が何者かが見えてきます。